

記録映画

歌舞伎の魅力

教育映画祭優秀賞

舞台美術

さか かし 松 とも や
— 参 会 名 護 屋 —

カラー 34分
価格 ¥200,000



協力 鳥居清光 金井大道具株式会社 松竹衣裳株式会社 東京鴨治床山株式会社 藤浪小道具株式会社
伊藤静夫 矢島徳次郎、鴨治歳一 東京国立博物館 東京芸術大学 リッカー美術館 臨川書店

企画・国立劇場

製作・英映画社

—製作意図—

国立劇場は、歌舞伎鑑賞の手引きとして、映画「歌舞伎の魅力シリーズ」を製作しています。元禄10年、初代市川團十郎によって初演された“参会名護屋”が国立劇場で、287年ぶりに復活上演されました。今回は、その演目を素材に『舞台美術』の持つ役割や製作過程、その上演された舞台を通して、歌舞伎の持つ多様な魅力について解説するものです。



—解 説—

参会名護屋の舞台美術は、元禄以来、歌舞伎画を描いてきた鳥居派九代目にあたる鳥居清光さんが担当することになった。舞台美術とは、その演目の中に示された時代や場所、社会風俗とともに、登場人物の役柄や性格などを、より効果的に観せるため、大道具や小道具、衣裳やかつらなどの基本デザインから製作にいたるまで、様々な要素を統括する仕事である。清光さんは、元禄期の木版刷りの絵入り狂言本を手がかりに想を練り、調査を重ね、さらに夥しい資料に目を通して、基本構想を考える。

発注会議——これは製作スタッフと、主役の俳優さんを中心に、大道具、小道具、衣裳、かつら、床山など、江戸時代からの伝統技能を継承している職人さんたちと、舞台装置、音楽、照明などの関係者が集って行われる打合せである。清光さんの考えてきた舞台図を基に、人々の熱心な討議が続き、全体の舞台設計の方針が決まる。

歌舞伎の小道具は、江戸の職人仕事によって作られてきたが、今でもこうした伝統は現代の職人さんたちに受け継がれている。大道具の製作は、広い場所を必要とするので短期間に手際良く進めなければならない。

衣裳も演目の役柄に合わせて、絵柄や色彩が選ばれる。清光さんも担当者や相談し、必要な衣裳は新たに染色、仕立を依頼する。

舞台稽古も進み、初日近く——。工作室で製作されていた大道具など舞台装置が組立てられ、次々と舞台に現われる。清光さんは、客席と舞台を何度も往復しながら、手直しを指示したり、その効果を確かめたりして忙しい。

初日の幕があく。荒事の主人公を演ずる尾上松緑丈は、自分の顔に、剣の先の形をした隅取りする。これは忠臣不破伴左衛門、後に鐘旭大臣という主人公の複雑な役柄を示す工夫である。狂言の荒すじは、家に伝わる宝剣を巡って、正当な後継ぎの若君と、その宝剣を盗み、主家横領を謀る叔父太宰之丞の争いに、不破が若君に加勢する話である。

主家を浪人中の不破は、同輩名古屋山三郎が傾城葛城に心を奪われ、大切な宝剣探しもおろそかにしているのを知り、二人の仲を取り結ぶ。その仮祝言の夜、別室の不破の心はゆれ動く。水面に写る葛城の艶姿に魅せられた不破の衣裳の柄は、不気味なムカデである。

舞台は意外な展開となり、不破は親友の山三郎に自分の刀で刺されて暗転——。

鳴物とともに、暗い岩山に雷光が閃めき、不破から変身した鐘旭が、鬼の大將、実は太宰之丞を取り押えてせり上がってくる。鐘旭は悪者共から宝剣を取り戻し、山三郎に渡して大団円となる。

歌舞伎の魅力——、それは近世江戸期の庶民が生んだ、絵画的な美の世界の、魅力といえよう。

そして、その舞台の大きな部分を担っているのが、舞台美術なのである。

主なる出演者

不破伴左衛門・鐘旭大臣

尾上松緑

傾城・葛城

中村雀右衛門

不破女房・藤ヶ枝

沢村宗十郎

名古屋山三郎

尾上辰之助

仁木玄奇

岩井半四郎

横河運奇

坂東彦三郎

万世姫

中村時蔵

足利春王

尾上左近

正親町太宰之丞

中村富十郎

梅津掃部

市村羽左衛門

スタッフ

製作 服部悌三郎

脚本・演出 宮下英一

撮影 松川八洲雄

録音 瀬川嘉昭

照明 宮武嘉昭

解説 外山透

解説 加藤一

解説 井橋正美

解説 久米正明

現像所 東洋現像所

配給



東映株式会社 教育映像営業部

東京都中央区京橋2-4-12(東映京橋分室) 〒104 ☎03-272-5191(代表)

関東営業所 東京都中央区京橋2-4-12(東映京橋分室) 〒104 ☎03-272-5191(代)
新潟出張所 新潟市東区堀前通り六番町(新潟東映内) 〒951 ☎0252-22-3091
関西営業所 大阪市北区曾根崎新地1-13-22(大阪東映会館内) 〒530 ☎06-345-9026
広島出張所 広島市中区八丁堀16-10(広島東映内) 〒730 ☎082-221-0505
高松出張所 高松市丸ノ内11-14 〒760 ☎0878-51-3766

中部営業所 名古屋市中区錦3-24-3 〒460 ☎052-971-7634
九州営業所 福岡市博多区博多駅前5-12(栄泉博多ビル内) 〒812 ☎092-473-8541
東北営業所 仙台市一番町4-2-10(仙台東映内) 〒980 ☎0222-22-7613
北海道営業所 札幌市中央区南一条西7-4 塩業ビル 〒060 ☎011-231-1439